

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 25
2019・10・6

1 連邦農業省の科学諮問委員会が意見書を手渡す

―農業生態系の中で作物保護と生物多様性を― (2019・10・1)

連邦農業大臣が専門家の意見表明を受理した。クレックナーは、昨日（9月30日）作物保護と生物多様性のテーマで、作物保護の持続的な適用のための国内行動プラン（NAP）について、科学諮問委員会の所見表明を受理した。この中で科学諮問委員会は指摘している。生物多様性の喪失原因は、多岐にわたっている。幾つかの要因が複合的に作用し、そして相互に増強される。農業はそのことに関与している。

しかし、世間一の通説に背いて、例えば除草剤で昆虫の多様性の変化の13%だけがもとに戻る。クレックナー大臣：“私は科学諮問委員会に対して、彼らの仕事に感謝したい。高価値で安全な食料生産物は、農薬無しでは不可能である。スーパーで害虫つきのレタスを、手にする消費者はいない。そのため、目的はそのような農薬の投入は常に削減すること、そして同時に収穫を確保することである。”

我々はこのことを、非―化学的な代替え法の分野において、特に研究することによって実現したい。また、我々はデジタル化の可能性も活用する。精密農業の強化によって、農薬を明確に最小限に抑えることを実現する。新しい実践に役立つ方法は、現在我々のデジタル試験―実験の分野においてテストしている。”連邦省から科学諮問委員会に対して、要請した6つの事項のうち、今回の意見表明の中で5つが実行されている。

ユリウス キューン研究所とチューネン研究所は、農業分野における生物多様性の国内モニタリングの活動を、既に開始している。それは種の多様性の発展と農薬の実験的な効果を、究明するためである。

- ・非―化学的な農薬研究のために2年間で約2 500万ユーロ（約30億円）を充当する。

- ・農薬の認可方法は継続的に適応し、そしてさらに発展させる。有機栽培面積を 2030 年までに全農地の 20%への拡大は、有機農業の将来戦略であり、これは連立政権協約の中に定められている。
- ・連邦政府はヨーロッパレベルでの共通農業政策の改革に際して、生物多様性の奨励政策を強化し、そして特に農業環境プログラムについて、農村景観のより多くの多様性をもたらすために努力している。

連邦農業省は農薬の特別な課題に対する要求について、基礎的な税政策上の理由並びに目標への狙いが、正確でない誘導効果を懐疑的にみている。科学諮問委員会自らにおいて、この提案にまだ議論が残されていると、連邦農業省に意見を提出している。

2 ドイツ連邦食料省：食品の栄養価表示ニュートリア スコアを導入 —消費者の参加が大きな成果を— (2019・9・30)

連邦食料大臣クレックナーは、単純化し拡大した栄養価表示のどのようなモデルを、ドイツに導入すべきかを今日（9月30日）ベルリンで公表した。これの導入に際しては、広範に科学的に根拠づけられ、そして連邦省の委託で中立的な消費者研究が前提条件であった。この背景には、連邦大臣が最初にマックス ループナー研究所に、多くのモデルの科学的な分析の委託と多くの消費者の協力があった。

連立政権議員団、連邦消費者センター連盟とドイツ食料連盟（BLL）とともに、消費者研究においてどのようなモデルを、正確に示すかを決定した。これは告知のためのヨーロッパ法上の前提条件である。この結果が今ここにある。

適切な通達草案は、連邦食料大臣から現代に即して今提起されている。

クレックナー大臣：”私はドイツの拡大した栄養価表示として、ニュートリア スコア（Nutri-Score® 訳注参照）を導入した。

同時に私は、1つの議論の中で信頼のおける決定に出会った。この議論は、10年来非常に感情的に、また部分的ないし対極的に実施されてきた。そのため、我々が科学的な分析と消費者研究の導入でもって、今耐え得るそして信頼できるデータの基礎をもつことが、それだけに一層重要である。食料の購入に際して、より多くの透明性と安全性について、研究結果に示されている消費者の願いは大きい。

◇ 食料の栄養組成に全く関心を示さない人 67%

◇ 肥満症の人、Body-Mass-index 30以上 (64%)

(訳注・ボデーマスー指数・肥満度を示す指数)

研究構想：

INFO 有限会社：市場意見評価研究所は、連邦食料・農業省の委託においてテーマ「拡大された栄養価表示モデル」の評価での広範な研究を実施した。

研究の目的は、拡大された栄養価表示モデルのために、根拠づけられたデータの基礎を策定することである。特に EU 法上の基準値が、拡大された栄養表示の中で満たされることが重要である。この研究の中でニュートリー スコアモデル、法人ドイツ食料連盟のモデル（以前は法人・食料法と食料情報連盟 - BLL）のモデル、そしてマックス ループナー研究所 (MRI) のモデルと Keyhole® が、比較して研究評価された。

この3つの中心的な研究規準であった。モデルの認知、分かりやすさ、つまり今あるシステムが客観的に分かりやすいかどうか、並びに消費者の理解力と同時に消費者が今提起されているモデルを、的確に解釈するかどうか。

研究の領域における第一歩に 2019 年 7/8 月の期間中に、合計 10 の対象グループの議論を行った。その中で栄養価表示モデルに対する消費者の要望、他のモデルに対する細部的な評価もなされた。この基礎には、第 2 案としての質問一覧である。つまり、引き続き代表的な質問を行い、それは計 1604 のインタビューであった。

訳注：Nutri-Score：2007 年にイギリスで青、黄、赤の交通信号表示になぞらえたを、栄養価表示システムを導入した。2017 年にフランスが 5 色に色分けした栄養表示システム Nutri-Score® を導入し、今後ドイツがこのシステムの導入を検討している。このシステムは、A（緑）の「栄養的に最ものぞましい」から E（赤）の「最も悪い」まで、5 色に色分けし、消費者が食料購入の際の参考に資するものである。

3 ベルリンで持続的農業と食料のための戦略会議を開催

—若者から市民社会の代表者まで一堂に— (2019・9・30)

”そして明日、なにがあるのか？ 持続的な農業と食料のための戦略” —このタイトルのもとに、連邦食料・農業省（BMEL）が 2019 年 10 月 2 日に、市民並びに若者団体、政治、農業、経済そして市民社会の代表者を、ベルリンに招く。連邦大臣クレックナーは、環境フォーラムに BMEL の持続性行動を提起し、そして農業—食料業における持続的な発展の道について、会議参加者と議論する。

持続性会議の中心に据えられている課題：

- ◎ 健康でそして持続的に生きるのに、我々の食料習慣はどのように貢献できるか
- ◎ 飼料は資源に優しくつくられているのか
- ◎ 有機農業は将来どのような役割を演ずるのか
- ◎ 我々は土壌に腐植をどのようにして効果的に強化するか。気象を保護しそして農業の適応力を向上させるために。

土壌の慎重な扱いが全てに該当する

食料生産者、商人または消費者であっても、都市または農村地域であって、も、連邦または地方政策であっても—土壌の慎重な扱いとその資源に全てが関わる。それゆえに、BMEL は、アジェンダ 2030 とドイツ持続性戦略を政治的な行動の基本とし、そして既に多くの分野において将来性のある問題解決を促進する。なぜならば、我々は共通の行動を通じてのみ、次世代に良い生活を確保できるからである。

2019・10・4 訳

青森中央学院大学

中川 一徹